

ASIL決定表

		C1	C2	C3
S1	E1	QM	QM	QM
	E2	QM	QM	QM
	E3	QM	QM	A
	E4	QM	A	A
S2	E1	QM	QM	QM
	E2	QM	QM	A
	E3	QM	A	B
	E4	A	B	C
S3	E1	QM	QM	A
	E2	QM	A	B
	E3	A	B	C
	E4	B	C	D

S:危害度 E:頻度 C:回避性能  
\* ISO26262、2009年 DIS版より引用

安全策 (例)	
■	各フェーズでの設計検証(FMEA、FTA等)は必ず実施し、結果がOKとなるまで、次のフェーズに進まないこと
■	変更前に必ず影響分析を行い、関係技術者に伝達すること
■	開発するハードウェアの故障率は $10^{-8}$ /h未満のこと
■	上記故障率を安全目標とし、この目標に対し、設計検証時、システムテスト時の正確な測定方法を確立すること
■	ソフトウェアのバグ率は10FIT以下でマイコンが実行されること
...	
...	

業務へアプライ

Part2; マネージメント: \*開発計画 (Safty-Plan含む)、\*PRJ組織、資格、\*品確結果、サプライヤーとの共同開発契約、etc

Part3; コンセプト  
\*基本構想、\*ブロック図、etc

Part7; 製造・市場  
\*市場監視、\*ワランティー情報、etc

Part4; システム開発  
\*システムフローチャート、\*技術安全要件、\*システム要求仕様、etc

Part4; システム開発  
\*システムテスト、\*実験評価、etc

Part5; ハードウェア  
\*ハード要求仕様  
\*回路設計、  
\*ア트워크、  
\*故障率、  
\*HILS試験結果、etc

Part6; ソフトウェア  
\*ソフトウェア要求仕様  
\*ソースコード、  
\*HILS、SILS試験結果  
etc

Part8; 支援プロセス(サプライヤーとのコミュニケーションプロセス):  
\*品質管理規定、\*サプライヤーセフティプラン、\*要求仕様&承認、etc

注) Part2~8は、ISO26262の分冊名

標準に基づいた業務

手法、基準、仕組み、ガイドライン、ツール